

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 東通り)

事業所番号	0691900013		
法人名	特定非営利活動法人 あすなるの会		
事業所名	グループホームあすなる南陽		
所在地	山形県南陽市宮内2767-15		
自己評価作成日	平成 23年 8月 22 日	開設年月日	平成 18年 12月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

西に同じ
------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

*西通りに記載
---------

事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株) 福祉工房		
所在地	〒981-0943 仙台市青葉区国見1丁目19番6号-2F		
訪問調査日	平成23年9月13日	評価結果決定日	平成 23年 10月 17 日

## . サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>						
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本年度より法人の理念が一新された為、従来の事業所理念とあわせ、玄関・事務室に掲示している。又、毎日朝礼で唱和し職員間で周知・再確認と実践に努めている。	NPO法人あすなる会の理念が出来たので、ミーティング、朝礼で唱和し、職員に周知している。事業所の理念は法人理念が周知されてから、話し合いをしながら見直しをする予定である。	事業所の理念が管理者、職員で話し合い、具体的なケアになるようにする。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元町内会に参加し、地元のお祭りでおみこしを施設前で見て頂いたり、ボランティアの受け入れ等で交流を図っている他今年度より、法人全体で地域交流委員会を立ち上げ、夏祭りや芋煮会を企画し、地域の方がたが参加できるよう積極的に活動している。	法人で研修、環境、地域交流、災害委員ができて、各事業所から担当が集まり、地域密着の強化を計画している。年2回の老人会との茶話会、入所者の友人がお茶飲みに来り行ったりしている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、状況報告等を通して認知症について理解して頂く事に努めている。地域の一部の周知なので今後、地域交流委員会等を通して少しでも多くの方々に活かせるよう努めていきたい。			
4	(3)	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、行事等の報告や問題点を話し合っている。推進委員のメンバーは固定しているので、毎回積極的に関わっていただいている。又出された意見は、法人や施設内で共有し改善に努めている。	市役所の係長、民生委員、家族、ケアマネジャー等の参加で事業所の状況の報告やお祭り、行事等の様子を話し合っている。日常生活の課題等、意見や事業所のモニターになって頂く事の検討が望まれる。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福祉課の係長が、運営推進会議の委員になっているので、アドバイスや意見を頂いている。窓口に出向いたり、問題があったときは、電話やメールにて相談できている。	毎回運営推進会議に参加している係長は、事業所の状況をよく理解しているので、心良く相談に乗ってくれる。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	多動の方が危険の無い様に玄関にかぎをかけることがある。転倒の危険がある方にはペット柵を2個させて頂いているケースがあるが、両者とも家族より同意書を頂いている。基本的にはなるべくスタッフが寄り添い、見守り拘束無く生活出来る様、努めている。	夜間のベットの柵の使用は家族に同意を得ている。又外出して近所の家について電話を掛けて頂いたり、送って頂いたりしたと地域の協力がある。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	具体的に勉強会は実施していないが、職員間で虐待になりうる事項があったので、皆で共有し事故防止に努めている。又、言葉使いや関わり方でクレームがあったので、現在改善にむけて努力している。			
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援に向け、個々のかかわりを大切にしている。成年後見人制度については今年度全体的な研修をしておらず、今後行っていく予定。一部県の研修の中で受けた職員がいる。(実践者研修・管理者研修で)			
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はおもに管理者が家族の意向を聞き、GHの特徴を含め十分な説明をしている。不安のない様、疑問点を聞き納得し入所できるよう努めている。			
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に意向を確認できるよう努めている。又、家族会で出された意見の把握と法人からアンケートを依頼し、問題点を把握し、改善に努めている。	法人で家族にアンケートをしたり、課題、問題点(職員、ケア等)が見えてきて、改善の課題が見えてきた。又家族会での意見も改善の参考にしている。		
11		運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設に関しては、ミーティングで把握し反映させている。法人全体としては、週1回の会議で、細かい問題点の改善に努めている。			
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として全体を把握するよう毎日メールで確認したり、直接施設を訪問し、現状の把握をしてもらうよう行動している。意見もそのたびに把握できるよう努めている。条件については法人全体のバランスを考えながら、個々に反映できるよう提案している。			
13	(7)	職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が1人ひとりが向上できる様、内部研修を充実させる様に努めている。又、GH協の研修会等にも積極的に参加し、全体の底上げに努力している。	年4回内部研修に参加、外部研修、交換実習にも参加して、ケアの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会(県・置賜ブロック)の研修や、交換実習や会議等で伝達研修をしている。	県のグループホーム協議会に入会して、研修に参加して交流している。又スクラム研修にも参加して、ケアの向上の為に情報交換している。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査の際、入所後安心して頂けるよう十分な聞き取りを行っている。入所してからも、体調面・精神面の不安が無いように関わり方・把握に努めている。			
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が安心して預けられるよう、事前にお聞きした事を常に念頭に入れながら、関わっている。又、月1回のお便りで様子をお知らせしている。			
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番困っている事・要望をしっかり把握し、安心して過ごせるよう努めている。			
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	擬似家族として、お互いの気持ちも遠慮なく言えるような関係に近づけるよう努めている。入所者の意見を尊重し、同じ目線に対応するよう努めている。			
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者について少しでも家族の思いに近づけるよう、かわりを大事にして、本人が安心して過ごし、共に支えあう関係を築けるよう努めている。			
20		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活習慣を大事にして、なじみの友人や隣人との関係が薄れないよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の様子を把握し、相性を見て食事席を工夫したり、職員が入り関わりを持つ事で入所者同士が支えあえるよう支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も特別養護老人ホームの申し込みの相談や、今後の事で不安な事を聞かれる時があるが、いつでも相談に対応できる様にしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向を探る努力をしている。困難な場合は、なぜ困難なのか、行動を見て探ったり、その背景にあるものを見つけようとしている。センター方式のシートで、C-1-2のシートを中心に活用している。	アセスメントから利用者の思いや意向を把握している。日常生活でその人らしく暮らせるように検討してほしい。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話の中で、少しずつ聞いてみたり、家族に今までの経緯を聞き取り、本人の今までの生活をイメージできるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	なるべく利用者と一緒に過ごし、現状を把握するように努めている。できる事を見つけ、今後の生活に役立てたり、心身の状況を正確に捉え支援している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	初回は家族・本人の意向を十分配慮して作成している。毎月のカンファレンスで、正確な状況の把握に努めているが、家族の面会時、会話の中や利用者の状況の変化により、スタッフ間で共有できるよう努めている。	月1回のカンファレンスで利用者の一人ひとりを確認している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に関しては、まだまだ不十分なところがあるが、書式の検討を重ね、より明確で見やすく、正確な把握に努めている。又、申し送りノートを活用し、職員間の情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	床屋や地元の商店に出向いたり、友人宅を訪ねたり、今までのなじみの生活が継続できるように支援している。			
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状況を把握し、受診報告書の活用でかかりつけ医との情報共有に努めている。	8名程は事業所の協力医の往診です。その他はそれぞれの係りつけ医に家族が同行している。家族が出来ない時は事業所で通院の支援をしている。受診報告書を家族にだしている。		
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はいないが、利用者の状況をかかりつけ医や看護師に伝え、相談できる関係ができています。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関にスタッフがお見舞い方々、状況の把握をしている。病院関係者に施設の状況を伝え、状態に応じた対応に努めている。退院時はサマリーを受け取り、適切な対応に努めている。			
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの体制はできていないが、重度化した場合の意向を文書で確認している。(入所時)かかりつけ医から紹介状を書いて頂き、次の機関へスムーズな移行ができる体制ができています。	「重度化した場合における対応」について入所時に家族に説明して同意書を頂いているが、現在の事業所は、医療行為が常時必要になった時は、事業所での生活は困難である事を明記している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の訓練は今年度はまだ実施していない。緊急時の対応はミーティングやそのつど確認し共有できている。			
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施しているが、地域との協力体制は具体的にまだできていない。	年2回の消防訓練が実施されている。今回の東日本大震災で事業所でも課題ができ法人の防災委員会で再検討している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今年度は、新しい体制になり、特に力を入れている。決して人格を否定するような言動にならない様常に気を配っている。	排泄時や介助時の職員の言葉づかいが一部職員が不相当であるとアンケートで指摘された。内部研修、OJTで指導が必要である。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、個人の思いをくみ取り、希望やできる事は支援している。お茶の時間などで思いを聞き、反映できるよう支援している。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位を優先し行動・支援できるよう日々確認しながら支援している。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や出かける時、服のコーディネートや化粧をしたり、気分転換等できるよう支援している。			
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞いて買い物に出かけ、できる下ごしらえ・味付け・盛り付けを皆でしている。茶碗を洗ったり、拭いたりできる事はしてもらっている。	職員が入居者に食べたい物を聞いて、献立を作り、買い物に行く、買い物、調理への参加者は一部の人である。が食事時に何かに全員が参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食べ過ぎないようにカロリーには気をつけている。又、尿量と水分の把握で、必要時本人の好む形態の水分を摂っていただいている。個別にペットボトルを枕元に置き、夜間も水分補給ができるよう配慮している。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアは全員している。個人の状態に合わせて、介助も段階をつけ、できる事はして頂き介助している。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>日中は全員トイレ誘導している。一人ひとりのパターンにあわせ危険の無い範囲で見守り、支援している。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘の方は下剤のみに頼らず、水分・食事量・運動量を把握し、個別の対応をしている。排泄チェック表を基に下剤の調整を個々にしている。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>個人の意向を汲み、できるだけ好きな時間を設定しているが、職員の配置の関係で時間や人数を調整する事がある。希望にそって対応できるよう検討している。</p>	<p>基本的には週2回であるが、毎日入浴できるように体制はできている。1日に4～5人が入浴している。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>足のむくみがあったり、体調によって適宜休息してもらい健康維持に努めている。夜間はテレビのボリュームの調整をしたり、空調調節で安眠できる環境作りに努めている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>誤薬がない様、食後手渡しや飲み込み確認まで行い、声をだして、名前確認後服薬してもらっている。又、服薬後に限らず状態の把握に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	一人ひとりの生活歴を知った上で、その人を活かせる様な役割分担や好きな事を一緒に探し、笑顔で生活出来る様支援している。			
49	(18)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	個々の希望に添って買い物等へ出かけたり、お盆は本人の希望があれば、家族にお願いし、連れて行って頂いている。個別にお墓の除草や片付けに連れて行ったりして支援している。	車椅子の利用者も近くの公園に散歩したり、葡萄狩り、川西のダリア観賞を計画している。外食やお墓まいりは家族と一緒に出かけている。散歩は一部の入居者になっている。		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	管理できる範囲でお金を持ち使えるようにしている。欲しいものは、家族の了解のもと購入している。			
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	電話ができる方には、個々に対応している。家族の面会時に確認したり、自由に対応している。			
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	常に整理整頓を心がけ、季節のカレンダーや花を飾り、環境整備に努めている。常に空調にも気を配っている。調整の判断が難しいかたには、衣類の調整等、家族と相談し対応している。	畳の利用、ソファの配置とそれぞれの居場所を作る工夫がみられる。テレビも集まって観て話をしている。食事中モテレビをつけているが、観ている人は？……(東ユニット) 食事の工夫がほしい。		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	個々の思いを大事にして好む空間で過ごして頂ける様配慮・工夫している。仲間と過ごす楽しさを味わえるよう配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に利用者が安心して過ごせる様、なじみの物を部屋に置き、気持ちの安定を図ったり、好みのもの・使いなれた物を持ち込み、生活し易いよう工夫している。	なじみの物が持ち込まれて、その人らしい部屋作りがされている。安心して生活ができるように支援している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や使いやすいようなもののおき方等工夫し、一人で一連の動作が、し易いようセッティングしている。		